



令和 4 年度事業概要



上流より新東谷橋を望む

国土交通省
庄内川河川事務所

目次

庄内川の概要	P1
「流域治水」への転換	P2～P4
令和4年度事業費	P5
令和4年度事業実施方針・実施箇所	P6
特定構造物改築事業・河川改修・河川環境	P7～P10
河川維持	P11
洪水調節施設・ダムの有効活用	P12～P13
防災の取組・地域連携・気候変動に対する事務所の取組	P14
土岐川・庄内川の水害リスクについて	P15

はじめに

庄内川では東海豪雨の教訓を踏まえて、東海豪雨と同規模の洪水による被害を防止することを目標に治水対策を進めてきており、着実に治水安全度は上がっています。

一方で、近年は毎年のように、全国的に大規模な洪水被害が発生しています。この気候変動による水災害リスクの増大に備えるためには、これまでの河川管理者等の取組だけでなく、流域に関わる関係者が、主体的に治水に取り組む社会を構築する必要があります。

そのため、庄内川流域では流域のあらゆる関係者で構成する「流域治水協議会」を全国に先駆けて令和2年度に設置しました。そして、「庄内川水系流域治水プロジェクト」を令和3年3月25日にとりまとめ、昨年度にはグリーンインフラの取組みを追加するなど流域治水の取組を深化させております。また、住民の方々の主体的な参画を目指し、昨年度に「土岐川・庄内川流域治水シンポジウム」の開催、流域治水MOVIEやロゴマークを作成するなど流域治水を広く周知してきました。

今年度は、「防災・減災、国土強靭化のための5か年加速化対策」の予算(令和3年度補正予算)も活用し、この「流域治水プロジェクト」を加速して実行します。

そして、庄内川河川事務所は「流域治水プロジェクト」の推進を通じて、持続可能で強靭なまちづくり、防災教育の推進、生物多様性の保全等の「SDGs(持続可能な開発目標)」の達成に貢献し、「誰一人取り残されない」社会の構築を目指していきます。

庄内川の概要



「流域治水」への転換

- 気候変動の影響や社会状況の変化などを踏まえ、河川の流域のあらゆる関係者が協働して流域全体で行う治水対策、「流域治水」へ転換が必要です。
- 治水計画を「気候変動による降雨量の増加などを考慮したもの」に見直し、集水域と河川区域のみならず、氾濫域も含めて一つの流域として捉え、地域の特性に応じ、①氾濫をできるだけ防ぐ、減らす対策、②被害対象を減少させるための対策、③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策をハード・ソフト一体で総合的かつ多層的に取り組みます。



庄内川水系流域治水プロジェクト

- 気候変動による水災害リスクの増大に備えるためには、これまでの河川管理者等の取組に加えて、流域に関わる関係者が、主体的に取り組む社会を構築することが必要です。
- 「流域治水」の考え方に基づき、堤防整備、ダム建設・再生などの対策をより一層加速するとともに、集水域から氾濫域にわたる流域のあらゆる関係者で水災害対策を推進します。
- 庄内川流域については全国に先駆けて「流域治水協議会」を設立し、令和3年3月25日にプロジェクトをとりまとめました。また、昨年11月には、シンポジウムを開催し、約150名の方々が参加しました。

土岐川・庄内川流域治水協議会

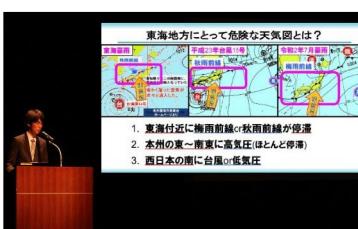
構成員：流域市町（18市5町）、岐阜県（県土整備部、都市建築部、林政部）、愛知県（建設局、農林基盤局）、東海農政局、中部森林管理局、岐阜地方気象台、名古屋地方気象台、多治見砂防国道事務所、庄内川河川事務所

オブザーバー：中部地方整備局 建設部・河川部、気象庁 名古屋地方気象台、日本下水道事業団 事業統括部、中部電力株式会社 事業創造本部、中日本高速道路株式会社 名古屋支社、名古屋保全・サービスセンター、名古屋高速道路公社 総務部、岐阜県 農政部、森林研究・整備機構 森林整備センター 中部整備局、東海旅客鉄道株式会社 建設工事部、環境省

◆住民向けのシンポジウムを開催（土岐川・庄内川流域治水シンポジウム）



パネルディスカッションの様子



基調講演の様子

- 基調講演では、土岐川・庄内川の水害における気象的な特徴、注意が必要となる危険な気圧配置などを紹介しました。
- パネルディスカッションでは、事前募集した一般からの質問に答えると共に、行政で実施できるハード面と地域住民も含めたソフト面の両立が必要不可欠であることや、都市計画と防災計画は別物ではなく手を組んでいくことが大事であること等の意見が出されました。



土岐川・庄内川流域治水MOVIE
(庄内川河川事務所YouTubeチャンネルにて公開中)

【土岐川・庄内川流域治水協議会の流れ】

第1回協議会（令和2年7月6日開催）

- ・庄内川流域治水協議会の設立
- ・庄内川水系流域治水プロジェクト【素案】の提示

第2回協議会（令和2年9月14日開催）

- ・庄内川流域治水プロジェクト【中間とりまとめ】(案)の提示
- ・指定区間を含めた本会議の拡充

第3回協議会（令和2年10月13日開催）

- ・リーディング地区での対策紹介
- ・庄内川流域で行う流域治水の全体像の共有・検討
- ・全体とりまとめイメージ及び今後の進め方確認

第4回協議会（令和2年12月14日開催）

- ・各自治体の課題の抽出・検討状況報告
- ・オブザーバーの位置付け明記（新規参画含む）

第5回協議会（令和3年3月25日開催）

- ・「庄内川水系流域治水プロジェクト」とりまとめ

第6回協議会（令和3年7月2日開催）

- ・防災まちづくりに関する取組報告
- ・グリーンインフラの観点の追加確認
- ・ロゴマーク作成、シンポジウム開催の決定

第7回協議会（令和3年10月21日開催）

- ・新規参画構成員（名古屋・岐阜地方気象台）・オブザーバー（JR東海、環境省）の取組の共有

シンポジウム（令和3年11月20日開催）

- ・流域治水MOVIE上映、基調講演、パネルディスカッション、ロゴマーク決定

第8回協議会（令和4年1月31日開催）

- ・ロゴマーク使用規程・使用ガイドラインの策定

第9回協議会（令和4年3月3日開催）

- ・グリーンインフラの取組を追加、R3実施状況フォローアップ
- ・流域治水プロジェクトに基づく取組の「見える化」

第10回協議会（令和4年3月31日開催）

- ・流域治水プロジェクトの実施状況フォローアップ 等

土岐川・庄内川流域治水のロゴマーク決定

- 土岐川・庄内川流域治水協議会は、土岐川・庄内川流域治水のシンボルとなるロゴマークを一般公募(79作品の応募)し、候補5作品の一般投票を経て、令和3年11月20日開催の土岐川・庄内川流域治水シンポジウムにて最優秀賞を発表しました。
- 最優秀賞作品は土岐川・庄内川流域治水のロゴマークとして、今後、土岐川・庄内川での流域治水を広く周知・PRするために活用していきます。



みんなでまもる土岐川・庄内川

土岐川・庄内川流域治水
ロゴマーク



ロゴマークの一般公募（79作品の応募あり）



候補5作品の一般投票



土岐川・庄内川流域治水シンポジウムにて最優秀賞の発表

土岐川・庄内川流域治水MOVIE

- 土岐川・庄内川流域治水協議会は、土岐川・庄内川の流域で水災害対策に取り組む関係者を紹介する「土岐川・庄内川流域治水MOVIE」を作成し、令和3年11月20日開催の土岐川・庄内川流域治水シンポジウムにて放映しました。
- 本MOVIEは庄内川河川事務所YouTubeチャンネルにて公開中です。



流域治水プロジェクト × グリーンインフラ

- 土岐川・庄内川流域治水協議会は、昨年度流域治水プロジェクトにグリーンインフラの取組を追加しました。
- 自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりを進めるグリーンインフラを取り入れた流域治水を推進していきます。

取組事例

生物の生息環境の維持に資する土地の保全

- ・ため池の保全
- ・間伐等森林整備
- ・畔の嵩上げ・排水路改修による雨水流出抑制 等



間伐等森林整備 (岐阜県)



畔の嵩上げ・排水路改修による
雨水流出抑制 (小牧市)

水辺の賑わい空間創出

- ・河川沿いの桜並木を鑑賞できる遊歩道整備
- ・かわまちづくり
- ・りばーぴあ 等



りばーぴあ (多治見市)



河川沿いの桜並木を鑑賞できる遊歩道整備
(瀬戸市)

庄内川水系流域治水プロジェクト × グリーンインフラ

- 自然環境の保全・復元などの自然再生
レキ河原再生、干潟保全・再生、河川の連続性の回復、ヨシ原再生、水際環境の創出
- 生物の多様な生息・生育環境の創出による生態系ネットワークの形成
大型水鳥等の採餌場保全、休憩地等の生息環境創出
- 健全なる水循環系の確保
浄化浚渫
- 沿川の保水・遊水機能を有する土地を保全
生物の生息環境の維持に資する土地の保全
(ため池、森林、水田、遊水地)
- 治水対策における多自然川づくり
整備における生物の多様な生育環境の保全、河川景観の保全・創出
- 魅力ある水辺空間・賑わい空間創出
水辺の賑わい空間創出、ビオトープの整備
- 自然環境が有する多様な機能活用の取組み
小中学校などにおける河川環境学習、
自然環境保全に関する協議会等の活動、民間協働による水質調査

干潟保全・再生



藤前干潟の保全 (名古屋市)

レキ河原再生



【国長橋下流】 (庄内川河川事務所)

庄内川流域で取り組む 流域治水 × SDGs

庄内川流域における流域治水×SDGsによる マルチステークホルダーパートナーシップの強化

1.普遍性

全ての流域で流域治水の行動を、

2.包摂性

洪水に対して「誰一人取り残さない」
防災減災を、

3.参画型

流域のあらゆる関係者が役割を持つ
(マルチステークホルダーパートナー
シップ)、

4.統合性

流域アプローチで統合的に経済・社
会・環境の課題解決に取り組む、

5.透明性

流域治水プロジェクトの進捗を流域治水協議会を通じて、
定期的にフォローアップ。



令和4年度 庄内川河川事務所 事業費

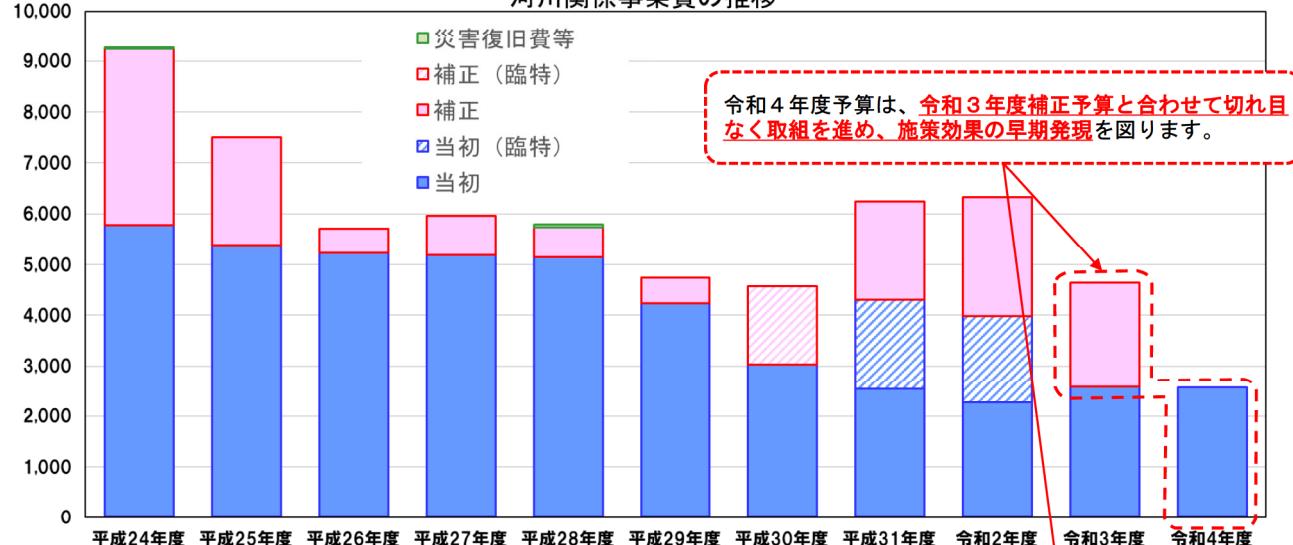
	令和3年度			令和4年度			前年度からの伸び率 ④/①
	令和3年度 当初予算 ①	令和2年度 補正予算 ②	計 ③: ①+②	令和4年度 当初予算 ④	令和3年度 補正予算 ⑤	計 ⑥: ④+⑤	
河川の改修	1,747	2,042	3,789	1,790	1,127	2,917	1.02
河川改修費	1,557	1,942	3,499	1,455	1,127	2,582	
河川都市基盤整備事業費	190	100	290	335	0	335	
河川環境の整備	35	0	35	23	0	23	0.65
総合水系環境整備事業費	35	0	35	23	0	23	
河川の維持管理	793	292	1,085	755	946	1,701	0.95
河川維持修繕費	781	278	1,059	755	886	1,641	
河川工作物間連応急対策事業費	0	0	0	0	0	0	
総合流域防災対策事業費	12	14	26	0	60	60	
小里川ダムの維持管理	350	139	489	349	150	499	1.00
堰堤維持費	350	139	489	349	150	499	
合計	2,925	2,473	5,398	2,917	2,223	5,140	1.00

事業費は、工事諸費(營繕費、業務取扱費等)を除いた金額を記載。

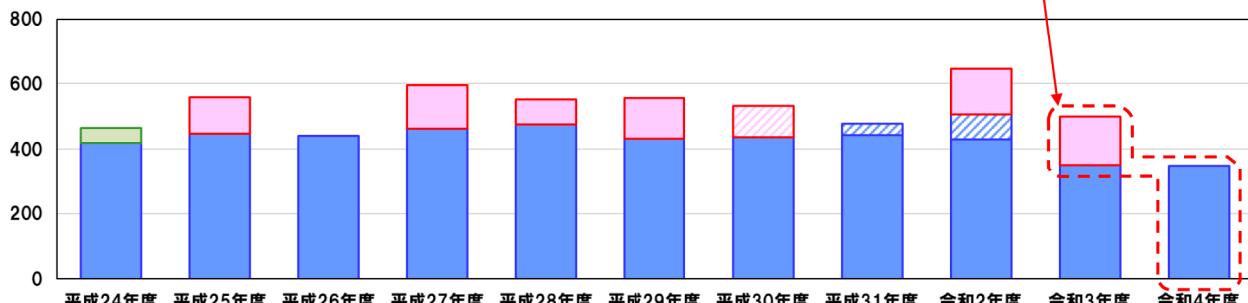
(参考) 事業費の推移

(百万円)

河川関係事業費の推移



小里川ダム関係事業費の推移



令和4年度 事業実施方針

流域治水対策を推進するため、庄内川の河川管理者として引き続き、氾濫をできるだけ防ぐ・減らす対策として、**流下能力の低い箇所を重点的に河道掘削・堤防整備**を実施します。加えて、**河川・河川施設の適切な機能保全のための維持管理**や**庄内川の自然再生(モニタリング)**を実施します。

＜河川改修＞

- ・下流部では、狭窄部対策、河道掘削(しゅんせつ)、堤防整備等を実施。
- ・中流部、上流部では、堤防断面または堤防高が不足している箇所の堤防整備を実施。

＜維持管理＞

- ・河川が適切な機能を発揮できるよう堤防の法面や護岸等の補修を実施。
- ・洪水や河川管理上支障となる河川内の樹木・土砂が再繁茂・再堆積しないように取り組みを実施。

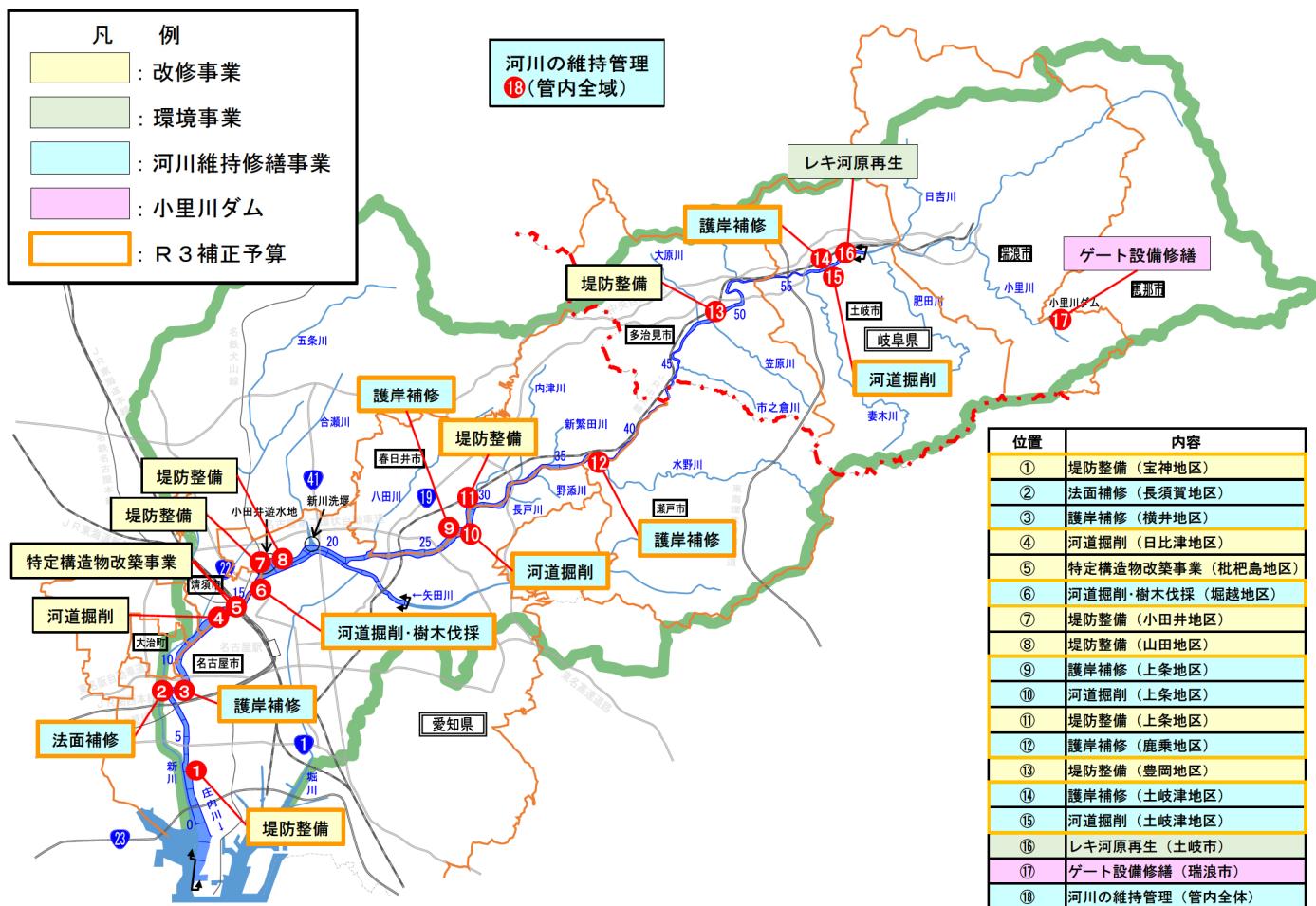
＜河川環境＞

- ・良好な環境に生息する多様な生物が生息することをめざし、多様な水際の創出や河道環境の縦断的なネットワークの形成を図るため、レキ河原再生を実施している。
令和4年度はレキ河原再生実施箇所のモニタリングを実施。

＜小里川ダム＞

- ・洪水時における防災操作を確実に実施。
- ・ダム常用洪水吐1号ゲート設備の修繕工事を実施。

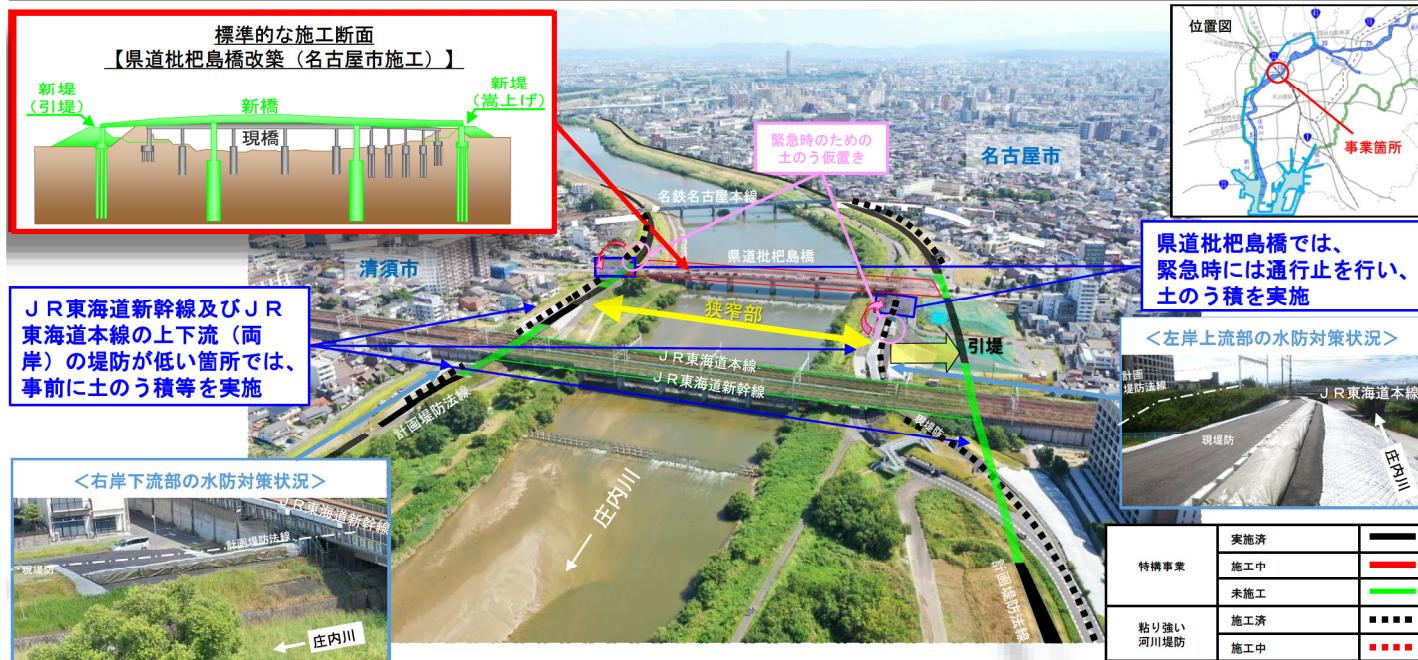
令和4年度 事業実施箇所 位置図(改修・環境・維持事業)



枇杷島地区狭窄部対策（特定構造物改築事業等）

- 枇杷島地区は、庄内川の狭窄部であるとともに、県道枇杷島橋を始め、桁下高が低く、橋脚の間隔がせまい橋梁が横架しており、洪水の流下に大きな支障を及ぼしていることから、河川の水位を低下させるため河道掘削を進めるとともに堤防整備(引堤)及びそれに伴う3橋梁の架替え(庄内川特定構造物改築事業)を実施しています。
- 令和2年度に橋梁部を除く左岸側の堤防整備が概成し、令和3年10月より「県道枇杷島橋架替(名古屋市施工)」に現場着手、令和5年度に仮橋の設置が完了予定であり、引き続き事業を推進していきます。
- 一方で、事業完了にはまだまだ時間を要するため、緊急時に備えて堤防の低い箇所に土のう積を令和2年度に実施し、令和3年度においては、JR東海道本線から名鉄名古屋本線の区間において「粘り強い河川堤防」※の整備を実施しました。

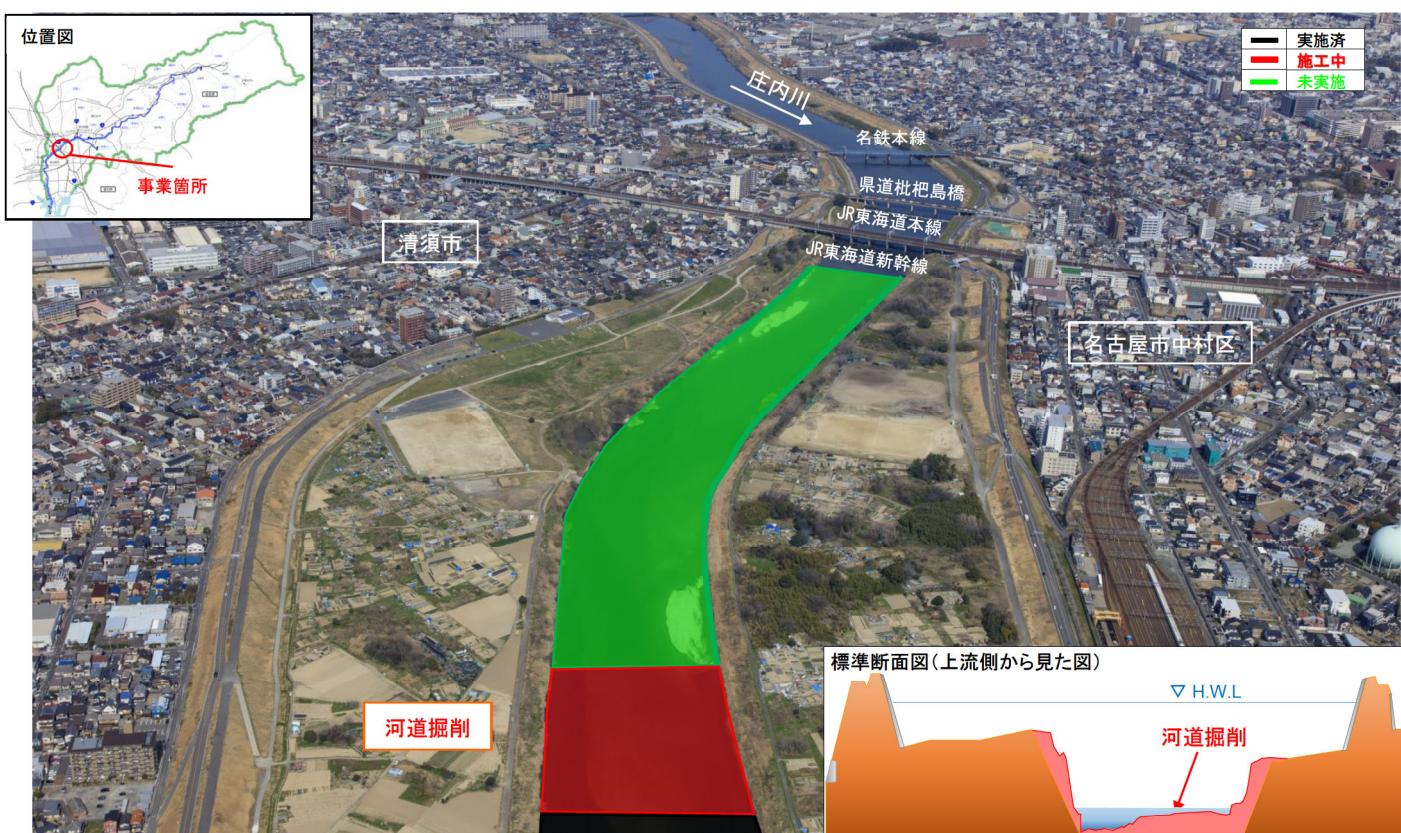
※越水した場合であっても、決壊しにくい河川堤防



枇杷島地区狭窄部対策（河道掘削：日比津地区）

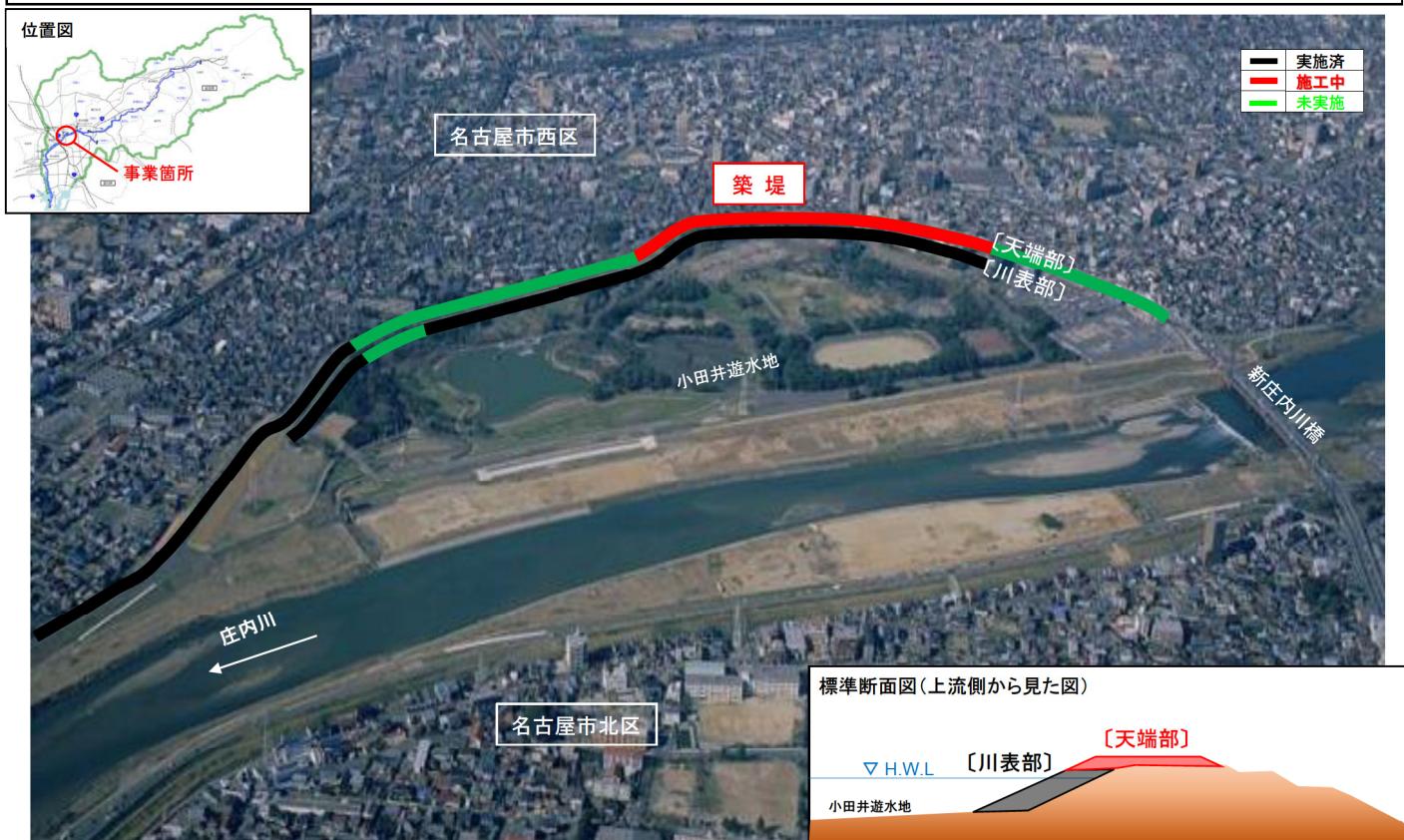
補正含む

- 枇杷島地区の狭窄部対策の一環として、洪水時の水位を低下させるため、日比津地区で河道掘削を実施します。
- これにより、庄内川の流下能力が向上し、地域の安全性を高めます。



堤防整備（小田井地区）

- 小田井地区は、洪水時に水を貯留する小田井遊水地において、高さや断面が不足している箇所の堤防整備を実施します。
- これにより、洪水時における堤防の強度を向上させ、地域の安全性を高めます。



堤防整備（山田地区）

- 山田地区は、高さや断面が不足している箇所の堤防整備を実施します。
- 令和4年度で山田地区の堤防整備は完了(予定)となり、洪水時における堤防の強度が向上し、地域の安全性が高まります。



堤防整備（上条地区）

補正

- 上条地区は、高さや断面が不足している箇所の堤防整備を実施します。
- これにより、洪水時における堤防の強度を向上させ、地域の安全性を高めます。



堤防整備（宝神地区）

補正

- 宝神地区は、地盤等の液状化による堤防の沈下を抑制するため、耐震対策を実施します。
- 宝神地区の耐震対策は樋管部を除き概成しており、令和4年度に樋管部を実施することで耐震対策が完了（予定）となり、地震時における堤防の強度が向上し、地域の安全性が高まります。



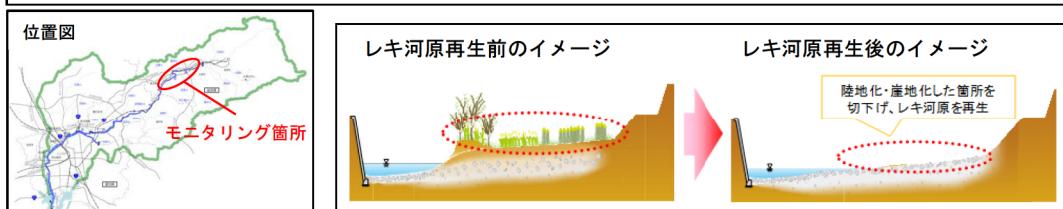
堤防整備（豊岡地区）

- 豊岡地区は、堤防の高さや断面が不足している箇所の堤防整備を実施します。
- これにより、洪水時における堤防の強度を向上させ、地域の安全性を高めます。



レキ河原の再生（河川環境）

- 庄内川上流部（土岐川）では、洪水時の攪乱頻度の減少により、河岸が陸域化し、そこへ樹木が定着することによりレキ河原が減少しております。
- 地元では、レキ河原は土岐川の原風景であり、生物とのふれあいの場であることから、河原の再生を強く望んでいます。
- これまでに実施したレキ河原再生箇所について、砂礫地固有植物や浅瀬に生息するアカザなどの生息環境を把握するとともに、施工時からの経年変化をモニタリングします。



レキ河原再生の事例【国長橋下流左岸】

施工前 (H21. 10撮影)



施工直後 (H24. 6撮影)



現況 (R3. 8撮影)



河川の現状把握・維持修繕（河川維持）

- 河川の状況監視や損傷確認、基礎データの収集などのため河川巡視、点検、観測等を実施します。
- 河川管理施設等の機能を確保するため、堤防・護岸・水門等施設の現状を把握し、河川管理上の支障の有無を確認し、適切な処置を講じます。

～河川の流況把握～



～河川施設の現状把握・維持修繕～



堤防の維持・樹木伐採（河川維持）

- 堤防点検あるいは河川の状態把握のため、堤防の除草を実施します。
- 河道内に樹木繁茂や土砂堆積が発生した場合、河道断面が減少するため洪水の安全な流下等に支障となる箇所においては、樹木伐採や維持掘削を実施します。また、樹木伐採や維持掘削については、環境に配慮しつつ実施します。

～堤防の維持～

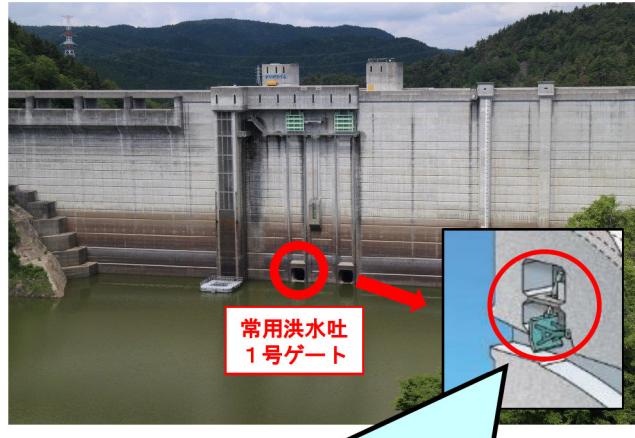


～維持掘削～



ダム管理

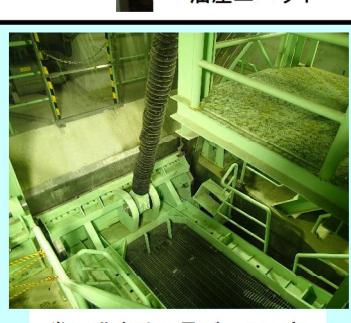
- 令和4年度は、通常のダム管理、並びに、常用洪水吐1号ゲートの修繕工事を実施します。
- 常用洪水吐1号ゲートは、2000年の設置から22年が経過していて、配管等に損耗・劣化が発生し、ダムの洪水調節に必要不可欠な設備であるため、機能を維持する必要があります。



更新機器



配管等の損傷状況



洪水調節施設

小里川ダム（多目的ダム）

平成16年完成

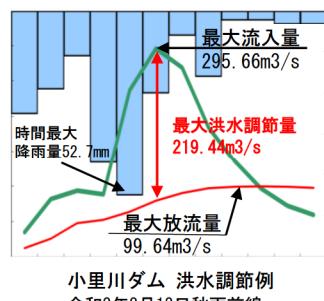
小里川、土岐川、庄内川を洪水から守ります。
貯留水を利用して発電や川の環境を守ります。

ダム地点の計画高水流量1,000m³/sの内、880m³/sを調節（貯留）し、120m³/sの放流を行い、川の増水を緩和し洪水から守ることができます。

小里川ダムの洪水調節のイメージ図



位置	恵那市、瑞浪市
堤高	114m
集水面積	55km ²
湛水面積	0.55km ²
総貯水容量	15,100千m ³
有効貯水容量	12,900千m ³



小里川ダム 洪水調節例
令和3年8月13日秋雨前線

小田井遊水地

小田井遊水地は、平時は名古屋市の都市公園として利用していますが、洪水時には庄内川の水を流入させて、庄内川を洪水から守る洪水調節施設です。



位置	名古屋市西区山田町
面積	約42ha
容積	約140万m ³
水門	1箇所
越流堤	190m

東海豪雨相当の洪水に対して最大で毎秒100m³を遊水地に流入させて、庄内川の水位を下げます。

庄内川におけるダムの有効活用（事前放流・浸水想定）

事前放流

○ 治水協定を締結

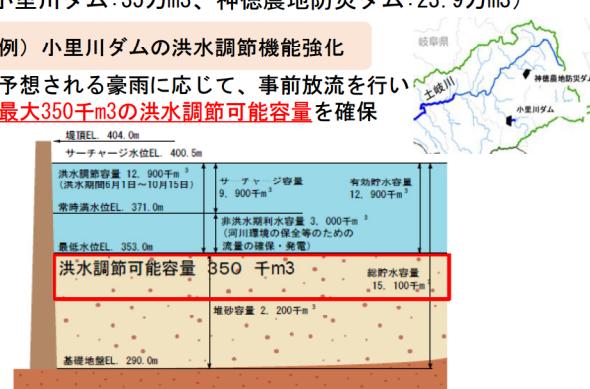
- 既存ダムの洪水調節機能の強化に向けた協議の場として、庄内川水系ダム管理連絡調整協議会を設置（令和2年5月25日）
- 庄内川水系（庄内川・土岐川）治水協定締結（令和2年5月25日）
（国土交通省中部地方整備局、岐阜県県土整備部、
土岐川防災ダム一部事務組合、中部電力（株））
- 治水協定では、事前放流の実施方針や情報共有のあり方について今後取り組むべき事項を定めています。
- ハード・ソフト対策を一体的かつ計画的に推進するための協議・情報共有を行うことを目的として、令和3年4月に小里川ダム放流連絡会を開催し、事前放流に係る情報共有方法を関係機関へ正式に通知。

○ 洪水調節機能強化

- 事前放流は、治水協定に位置づけられた洪水調節可能容量を活用し、この容量の範囲において実施します。
- 具体的には、58.9万m³を新たに確保しました。
(小里川ダム:35万m³、神徳農地防災ダム:23.9万m³)

（例）小里川ダムの洪水調節機能強化

予想される豪雨に応じて、事前放流を行い
最大350千m³の洪水調節可能容量を確保



小里川（ダム下流）の浸水想定図

○ 小里川（ダム下流）浸水想定図 作成の目的

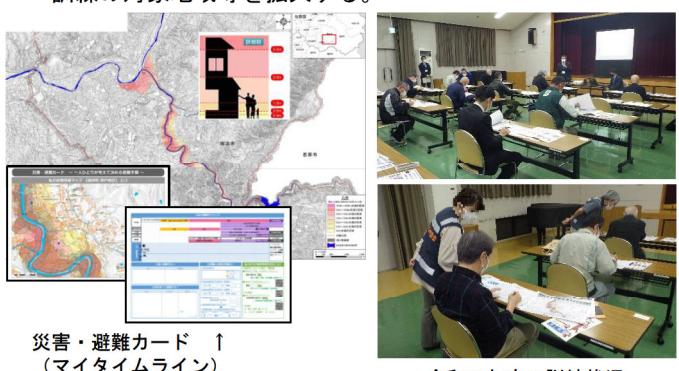
気候変動の影響等による異常豪雨の頻発化が懸念される中、ダムの洪水調節機能を上回る洪水時に、住民が円滑かつ迅速な避難行動に繋げられるように、「庄内川水系 小里川（ダム下流）浸水想定図」を作成（令和2年5月公表）。

○ 小里川（ダム下流）浸水想定図は、5種類

- 浸水想定図（想定最大規模）
- 浸水想定図（計画規模）
- 浸水想定図【浸水継続時間】（想定最大規模）
- 浸水想定図【家屋倒壊等氾濫想定範囲（氾濫流）】
- 浸水想定図【家屋倒壊等氾濫想定範囲（河岸侵食）】

○ 小里川（ダム下流）浸水想定図を活用した訓練

- 令和3年10月18日に瑞浪市稻津町の区長を対象に小里川ダム下流浸水想定図を活用した災害・避難カード（マイタイムライン）作成訓練を瑞浪市と合同で実施予定。
- 令和4年度は瑞浪市土岐地区を対象に訓練を実施。訓練の対象地域等を拡大する。



令和3年度の訓練状況

土岐川・庄内川の水害から命を守るためにの会議

- 土岐川・庄内川の「人命被害ゼロ」「社会経済被害の最小化」を目標に「土岐川・庄内川流域の減災に係る取組方針」に基づく減災に関わる取り組みを推進しております。
- 令和3年度は取組方針に基づき、会議の構成員が一体となって「要配慮者利用施設における避難確保計画作成促進」など「人命被害ゼロに向けた住民の自主的な避難行動を促す取組」を中心に進めてきました。
- 令和4年度も引き続き、構成員が一体となり、「民間企業の事業継続計画の作成支援」など、減災に向けた取り組みを推進していきます。

土岐川・庄内川の水害から命を守るためにの会議

目的 土岐川、庄内川が氾濫した場合の水害、または土砂災害や高潮による被害の軽減に資する取組を総合的かつ一体的に推進し、「水防災意識社会」の再構築すること。

構成員 沿川市町（12市3町）、水防組合、岐阜県、愛知県、庄内川河川事務所、気象庁、自衛隊、警察局、中部運輸局、名古屋高速道路公社、民間事業者（鉄道事業者、高速道路管理者、電力会社）



令和2年度 第3回会議の様子

「土岐川・庄内川流域の減災に係る取組方針」の主な内容（ソフト対策の取組）

①人命被害ゼロに向けた住民の自主的な避難行動を促す取組

- 平常時からの避難行動につながるリスク情報、避難場所や経路に関する情報の周知、住民の防災意識向上のための取組
- 洪水時の河川の水位等に関する避難行動につながるリスク情報の周知
- 避難勧告等の発令が避難行動につながる取組　・ タイムラインの作成・実践
- 大規模台風による高潮・洪水からの広域避難を実現するための取組

②洪水氾濫による被害の軽減、避難時間の確保のための水防活動や応急復旧活動に関する取組

- 平常時からの自治体や消防団等関係者による重要水防箇所等の把握、水防訓練の実施
- 水防活動や応急復旧活動の実施体制等の整備

③一刻も早い生活再建及び社会経済活動の回復を可能とするための事前準備に関する取組

- 氾濫流の排除計画の立案　・ 多様な主体による被害軽減対策に関する取組



「土岐川・庄内川流域の減災に係る取組方針」はこちら

地域連携

- 令和4年度においても、親しみのもてる庄内川であるよう、引き続き地域社会と一体となった川づくりを推進するため、河川協力団体やアダプト団体の活動支援を行います。
- また、環境教育や防災教育を推進し、災害時の緊急対策等に協力いただく団体（庄内川災害対策協力会）との連携を強化していきます。

環境教育

小学生、園児等を対象に年間約7回実施、
参加者約420人を支援
※コロナ禍のため出前講座にて実施



水生生物観察指導 透視度計を用いた水質調査

河川協力団体

河川管理者のパートナーとして実施する、「河川の維持管理」や「環境保全」に関する活動を支援



志段味ビオトープ（名古屋市）の環境保全の除草 毎年春・秋に開催される、藤原干渴クリーン大作戦

地域の建設業団体による取組

【庄内川災害対策協力会】

災害対策協力会は、36の建設会社が沿川に暮らす地域住民の安全・安心のため、**庄内川で災害が発生した場合に緊急対策等に協力する団体**

災害時の活動



R1.10 阿武隈川での排水作業及び照明点灯（宮城県）

防災教育

昨今の甚大な豪雨被害をふまえ、自然災害から命を守るために**重要な防災教育を支援**



災害について事前に調べた事を児童が発表したり意見を述べ合う様子

川の防災情報を紹介するなど、災害への備えについて説明

アダプト活動団体

身近な場所で**自主的に実施される市民活動**（河川美化・清掃、環境教育等）をサポート



平常時の活動



災害対策用機械の操作訓練

環境教育の場「子どもの水辺」清掃活動

気候変動に伴う水害の頻発化・激甚化

- 治水計画を、「過去の降雨実績に基づく計画」から「気候変動による降雨量の増加などを考慮した計画」に見直しの検討が必要となっております。

これまで

洪氾濫、土砂水、内水灾害、高潮・高波等を防御する計画は、これまで、過去の降雨、潮位などに基づいて作成してきた。

しかし、

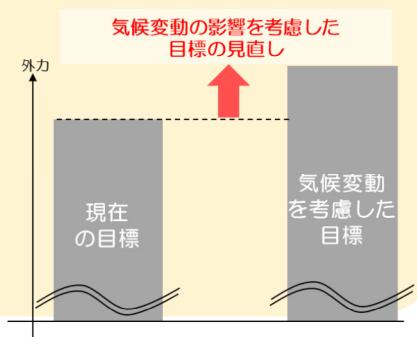
気候変動の影響による降雨量の増大、海面水位の上昇などを考慮すると現在の計画の整備完了時点では、実質的な安全度が確保できないおそれ

今後は

気候変動による降雨量の増加※、潮位の上昇などを考慮したものに計画を見直し

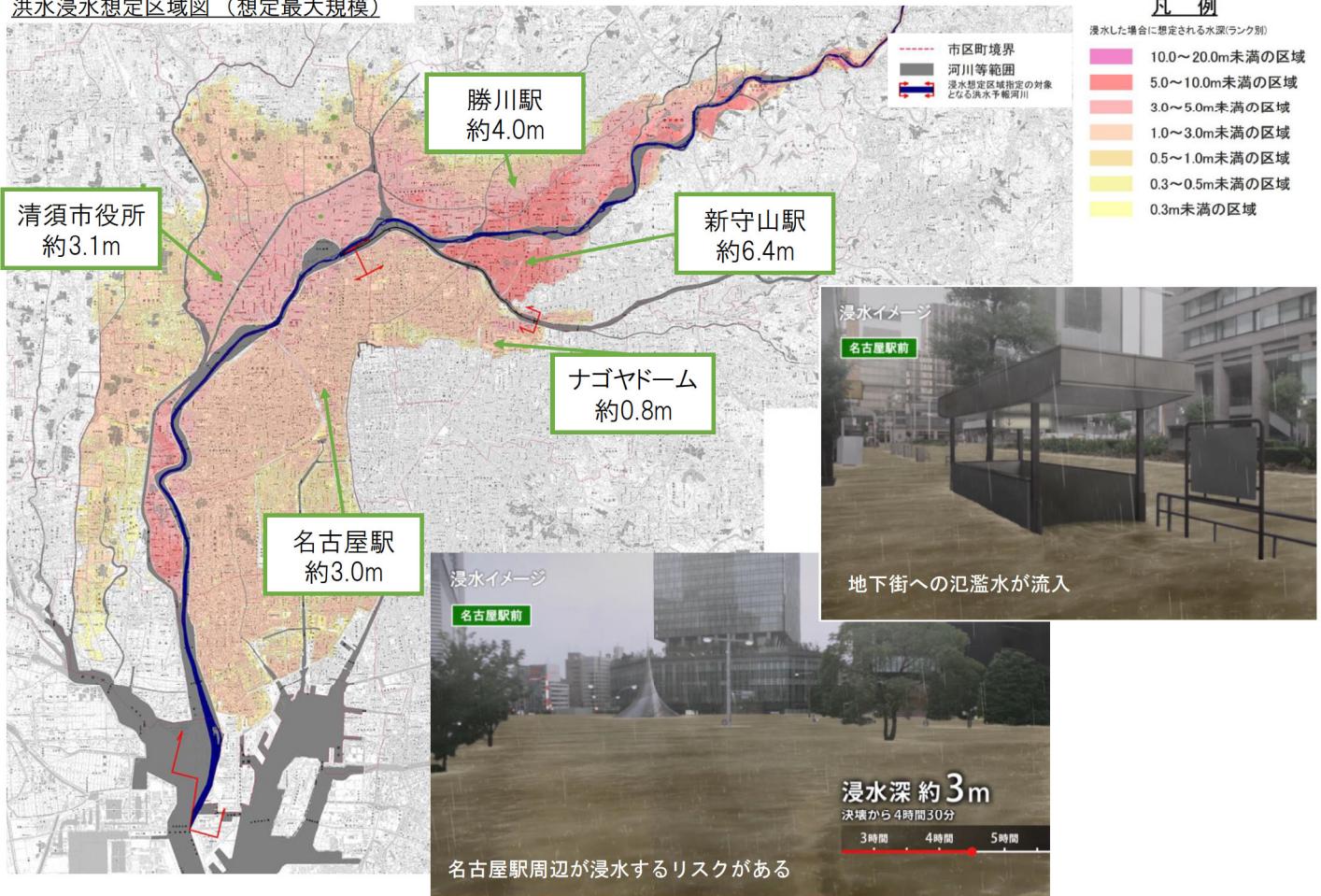
気候変動シナリオ	降雨量	流量	洪水発生頻度
2°C上昇相当	約1.1倍	約1.2倍	約2倍

※ 世界の平均気温の上昇を2度に抑えるシナリオ（パリ協定が目標としているもの）



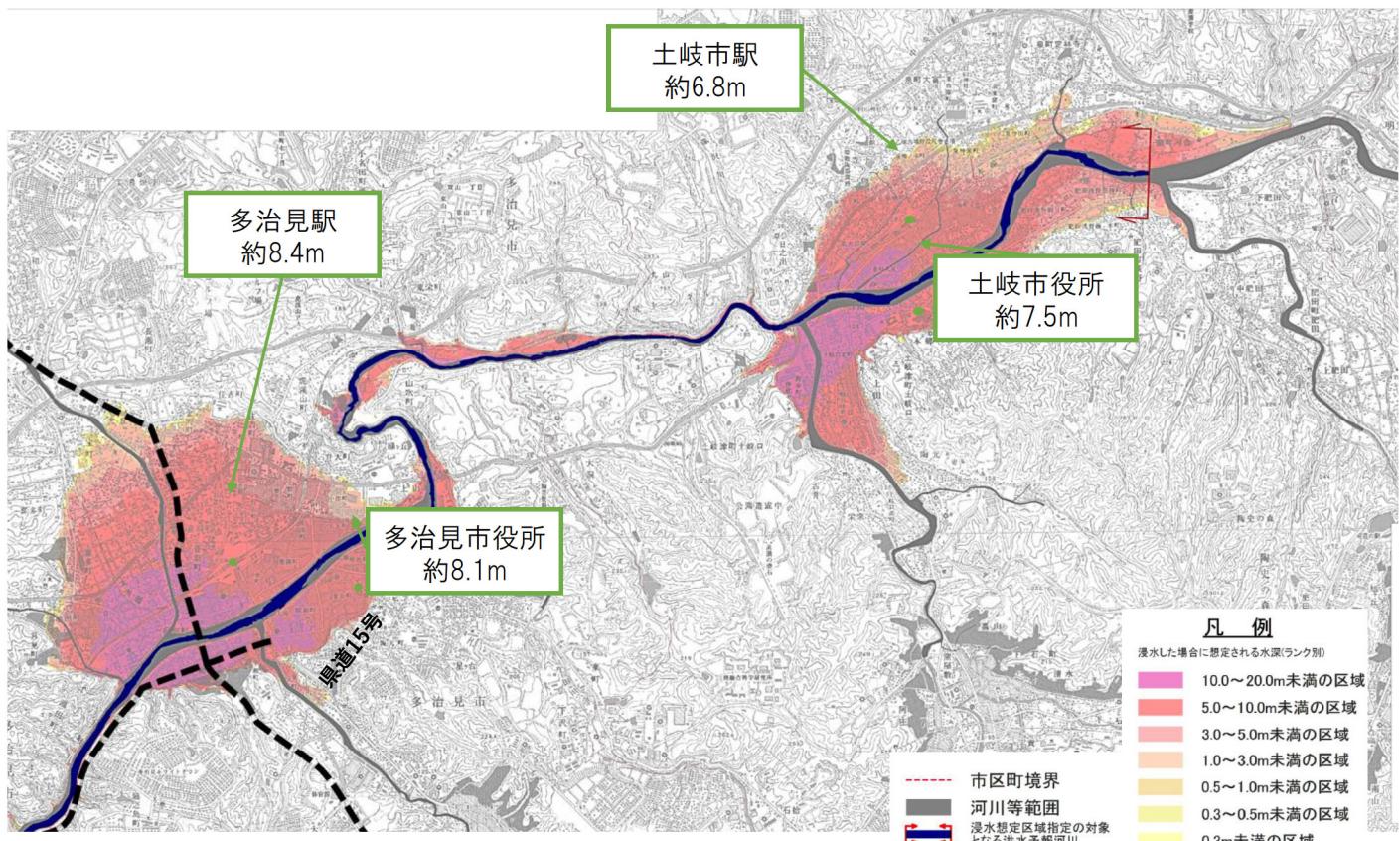
愛知県における水害のリスク

洪水浸水想定区域図（想定最大規模）



岐阜県における水害のリスク

洪水浸水想定区域図（想定最大規模）



(メモ)

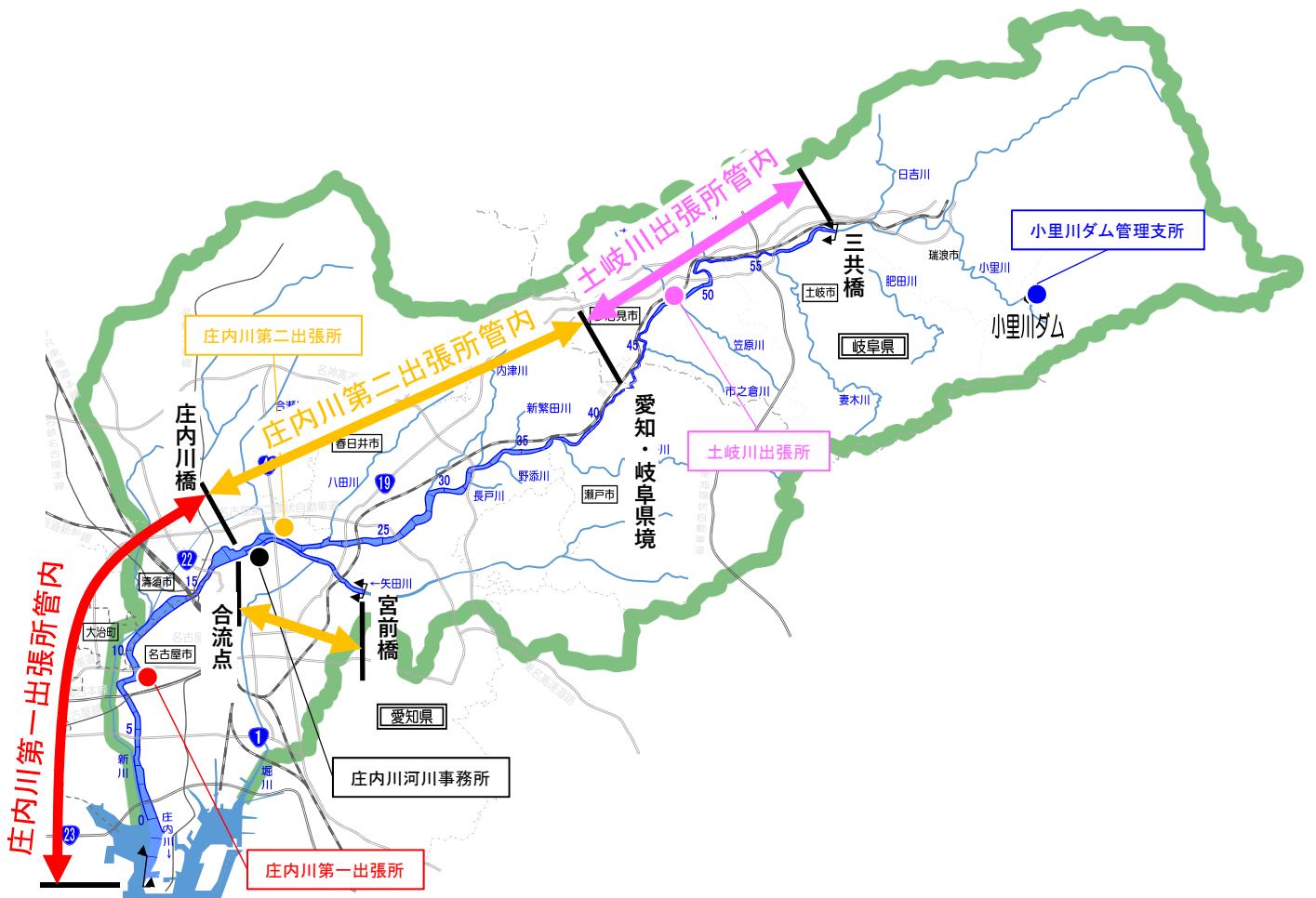
土岐川・庄内川流域治水MOVIE



庄内川河川事務所YouTubeチャンネルにて公開中
<https://youtu.be/5Hyxjxdr6oA>



みんなでまもる土岐川・庄内川



◆庄内川河川事務所

〒462-0052 名古屋市北区福德町5-52
TEL : 052-914-6711 (代表)

FAX : 052-915-5093

<https://www.cbr.mlit.go.jp/shonai/>



◇庄内川第一出張所（河口～庄内川橋）
〒453-0862 名古屋市中村区岩塙町西起168
TEL : 052-411-2539

◇庄内川第二出張所
〒462-0016 名古屋市北区西味鋤2-301
TEL : 052-901-5944

◇土岐川出張所
〒507-0042 岐阜県多治見市前畠町1-39-1
TEL : 0572-23-8505

◇小里川ダム管理支所
〒509-7606 岐阜県恵那市山岡町田代1565-21
TEL : 0573-59-0056